

黎明紙307号 御研鑽

社会の秩序を保つ上において、法律は非常に私共にとつて大切な役割をしているわけでございます。その中でも一番要の法律が、申し上げるまでもなく憲法であるわけでございます。ただこの憲法に関しまして最近色々な論議が交わされているわけでありますて、このままこの「憲法を変えない方がいい」という方もおられますし、「変えていた方がいい」という方もおられるわけで、これは人間それぞれのお立場もありますし、色々な考えをもつておられる方があるのは当然でありますけれども、しかし私共はこの

憲法を少しでも立派なものにしていかなければいけませんし、また一旦決めたからにはそれを守っていくということが大切だと思います。

けれども、今日は人間の決めました憲法や法律を云々するということよりも、そのもう「つ奥に、私共の魂の問題が非常に重要であるということを、明主様は仰っておられるわけでありますて、そのことについてめ御教えの中から2つほどの御教え（うち1つは次号に掲載）をご一緒に拝読させていただきたいと思います。

いくら立派な法律、憲法をもつておりますても、私共人間の魂の方が大変曇っている、あるいは自分だけ良ければいいということで、目先のことだけを考えて人が不幸になつてもそんなことは構わないとか、あるいは少しぐらい人を犠牲にしてもいいとか、あるいは法律を何か自分のためだけに悪用するとか、そういうような魂の人間が多かつたのでは、いくら良い法律をもつておりましても、決してこの世の中は良くなつていかないわけであります。

良い法律を作つても、それをより人間の幸せのために活かしていけるように、私共一人ひとりの魂が淨まつて高ま

つていかなければいけないわけがあります。そのことにつきまして、明主様がいくつかの御教えをお説き下さつてゐるわけでござります。

そのうちの一つに『道治国』という御教えがござります。これは、世の中には法律で治める国、法治国という言葉がございますけれども、明主様はそれに対して、この道で治める国という『道治国』ということを仰つておられるのだと思います。この御教えは今までにも何回も拝読させていただいておりますけれども、法律を守るということ也非常に大切であるけれども、そのもう一つ奥に神様の定め

られた道、これを「律法」とも明に様は仰つておりますけれども、そういう神様の定められた道を信じ、その道を守るということが非常に人間にとつては大切だということをお仰つておられるわけでございます。

　　昨今、この世の中は大変社会が乱れているとか、色々そういうことが言われているわけでありますけれども、それを解決するのに一番大切な根本は私共一人ひとりの魂が、神様を信じ、神様の定められた道を信じ、その道に従つていくということであるということをここでお説き下さつているわけでございます。

法律も、もちろん大切であります。けれども、先ほども申し上げましたように、私共の魂が神様を信じない、目に見えぬ物を信じないという魂でありますと、結局いくら良い法律をもつても、その法律を悪用すること、あるいはその法の網の目を如何に潜り抜けるかということの方に専念してしまって、結局この世の中を良い世の中にすることができないわけでございます。

私共一人ひとりの魂が、神様の御実在に目覚めさせていただきました、そしてその神様の定められた道、律法に従わせていただくという人間にならせていただき初めて、

この世の中は良い世の中になっていくということを、明主様はここで仰つておられるわけであります。

神様は、この宇宙を造られました時に、一つの道といふものを定められたわけであります。その道、あるいはその律法について、この世の中は動いているわけでござります。それでこの宇宙全体、世の中令体の秩序が保たれています。しかし、そのことを信じないで、ただ目に見えることだけに关心をもつて、目に見えることだけを対象としてまいりますと、結に何人に見られている時には悪いことをしないけれども、人に見られていなけれ

ば、少しぐらい悪いことをしても要領良くする方が得だと
いう考え方には、私共はつい落ち込んでしまうわけでござい
ます。 誰でも私共は悪いことをして、それがすぐ暴露す
る七いうことがはつきりしていれば、人間ばなかなかそう
いう悪いことはいたしょせん。けれども、結局その根底に
はうまくいけば隠しとおせるかもしかい、要領良くやつ
た方が得なんじやないかという考え方がある程度にあります
と、どうしても人間はその悪の方に落ち込みやすいわけで
ござります。それから私共は目先の方だけにとらわれてし
まうことが多く、長い目で見ると決していい結果ではない

ことがあるわけです。けれども、つい人間は目先の方にと
らわれてしまつて、それで要領良くやるということになつ
てしまいがちなわけでございます。それでそういうことに
陥らないようにする一番根本、一番大切なことは、私共一
人ひとりが神様の御実在に本当に魂の底から目覚めさせて
いただくということです。

これはいつも申し上げておりますけれども、私共は神様
を信じさせていただいているというふうに思わせていただ
いておりますけれども、何かの時にはふつとそういうこと
を忘れるわけであります。それで、つい人に見られていな

ければ大丈夫じゃないかというふうに考えてしまうわけであります。これから来たるべき地上天国、蜃の世界という世界は、一人ひとりの人間が、全て神様の御実在に目覚めさせていただいて、それで神様の定められた道理、道に従わせていただくという世の中であるわけでございます。

ですから、これから来たるべきそういう地上天国、蜃の世界に生かしていただく資格というのは、神様を本当に信じ、神様の定められた道に従わせていただくということでござります。そういう人間が地上天国の住民として残していただけるわけでございます。

最近、社会が色々な面で大変乱れてきており、これを何とかしなければいけないというようなことが色々言われて いるわけであります。世間」般では教育の問題とか、色々 言われているわけでござりますけれども、この（一番大切な 魂の問題）また神様を信じさせていただくということが如何に重大かということにまで触れられる方が、案外少ないわ けでございます。

例えば最近の子供さんが道に外れてしまわれた場合に、親としてあるいは学校の先生のお立場から申しまして、もつともつとそういう若い人達と接していくかなくてはいけな

いとか、色々ざつくばらんに話し合えるようにしておかなくてはいけないとか、そういうようなことを言われることがあるわけです。そのこと 자체はその通りであります。けれども、ただその時に接する側の親や先生の立場の方が、本当に心が少しでも神様の方に近づかせていただいておられる綺麗な気持ちをもつておられなければ、これは反って接すれば接するほど反って逆になってしまわれるということすらあるわけでございます。

ですから、私共自身が少しでも淨まらせていただいていくということが大事になつてくるわけでございます。もち

ろん」拳に浄まらせていただくということはなかなかできません。けれども、少なくとも私共が、常に神様の方に魂を向かわせていただいて、少しでも神様の御心に近寄らしていただきこうというように努力させていただいていて、初めてそういう若い方達と接して、少しでもその方達も神様の方に近寄っていかれることが可能になつてくるということだと思います。ところが世間の色々仰つておられるの中では、一番そういう肝心なことが抜けているのではないかと思うのでございます。

